

# しのはら歴史便り

篠原地区歴史同好会/浜風会会報 No.31

## 小学校に「郷土資料室」

篠原小学校に、地域の貴重な資料を保管、展示している「郷土資料室」がある。平成三年に、「浜松市市制80周年ミニふるさと創生事業」、「市への合併30周年の記念事業」として設置されたもので、篠原地区の歴史に興味をお持ちの方に、ここに改めて紹介するものである。

これは地区のご家庭で、眠っていた古文書や、過去に使っていた道具等を提供いただいで、広く住民の皆さんに見てもらおうと、小学校の空き教室を借りて、展示を開始したものである。

それが平成二十二年、耐震工事で、壁が追加され、部屋が大きく分断されたのを機に、展示内容を現在のように変更した。利用し易いことを願うてのことである。

### 従来からの展示内容と主な展示品

- 「あゆみ」↓成り立ち／発展の経過
- ・高札／馬郡村五人組帳／篠原村誌原稿
- ・絵地図／東海道分間延絵図
- ・篠原の年表／旧東海道の写真等
- 「まなび」↓学校の変遷を表す記録類
- ・教科書／卒業証書／通告表／学校日誌
- ・教育に関する勅語／そろばん／計算尺
- 「せいかつ」↓時代を生きた工夫の道具類
- ・ラジオ／アイロン／行燈／電話機等

- 「くじく」↓半農半漁を表す道具類
  - ・農業道具／漁業道具／竿ばかり等多数
- 新しい展示内容／活動成果を掲示



郷土資料室内の様子

浜風会は、地域の歴史を掘り起こして、地域の人達に分かり易くお知らせすることを旨としているが、「協働センターまっす」で発表した活動の成果を、この郷土資料室でも展示することになっている。(毎年更新する予定)  
現在の展示している内容は次のとおり。

### ① 篠原教育のあけぼの

今は閉じられた玉蔵寺に、江戸時代末期に寺子屋を始められたことを刻した石碑がある。その内容について、拓本を元に読み明かしたものを。

### ② 篠原の落花生金字塔

明治37年篠原の落花生が、米国のセントルイス万国博覧会で、見事最高賞の金牌を受賞した内容について、詳細に調べ上げた内容。

### ③ 「鈴木」姓は篠原に何故多い

「鈴木」姓が篠原にどれ程多いかについて、言い伝えから歴史的経過、篠原の地形に至るまで多面的に分析し、その理由を推定したものを。

### ④ 土地改良からみる篠原地区近代化の波

現在ある篠原の地形は、昭和三十年代～五十年代の土地改良によるものと言える。土地改良前後の地形を比較し、その意義を表している。

### 資料保管室には、古い貴重な道具類等

農業や漁業の大物道具類は、奥の資料保管室に保管されている。

また現在の天皇陛下が皇太子殿下の頃、馬郡町にあるうなぎ養殖池を視察された際の貴重な写真が飾られている。

### わすじ

小学校では地域についての勉強を、三年生から始める。「地域の自慢を探す」(くじく)、少しでも役立てばありがたい。(山下勝彦)

# 坪井村と馬郡村の高札場

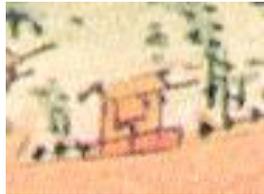
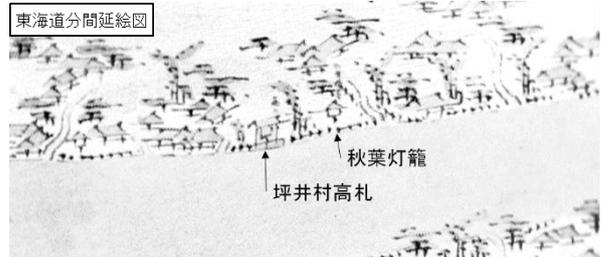
この程（29年2月）、坪井村にも馬郡村にも、高札場があり、そのあった場所も特定できたので、街道沿いにある私たち地域の昔を知り、更に理解を深めようと、篠原地区自治会連合会にご支援いただき、愛称標識を立てた。



江戸時代には民衆が守らなければならぬ法令を、往来で人目に目立つように掲示した。これを高札と言った。村のどこに立てられていたかは、文化三年（1806）に完成した『東海道分間延絵図』から紐解いた。この絵図は当時の街道を比較的正確に表していて、神社、寺、秋葉灯籠、東海道から脇に入る野道やさらに高札場が街道にあればこれも描かれている。

## 坪井村高札場

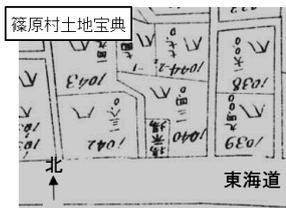
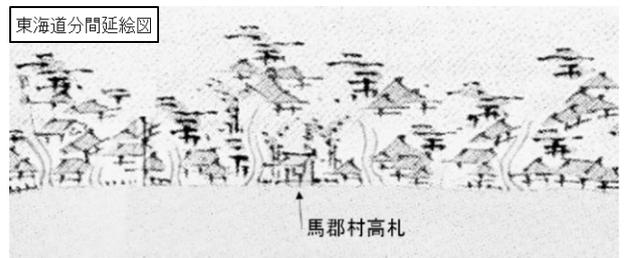
この絵図によれば坪井村高札場は、現在の坪井中組の秋葉灯籠の西側に描かれているので愛称標識は秋葉灯籠の前に立てた。このあたり



が坪井村の中心であったのだろうか。さらに西を追ってみると西組の秋葉灯籠らしいものがある。ここに描かれている坪井村の高札場の部分を拡大してみると、「雨覆い（屋根）」があり、前には柵が設けてあるように見える。最近復元された高札場を見学すると、四、五枚の高札が掲げられているので、この絵図では簡略して場所だけを表しているのだろう。

## 馬郡村高札場

坪井村との境と春日神社のほぼ中間あたりに描かれている。高札場の位置は現在の地図と



寺の入口や脇に入る道を合わせると、位置は現在の自主防災倉庫のあたりとなるので、ここに案内標識を立てた。昭和八年の『篠原村土地宝典』でのこの位置には「掲示場」と記されていて、高札場がその後も掲示場として保持されてきた。ここに接している家の屋号は「札木さ」と言われているのも興味深い。また、前述の土地宝典で坪井の南で長十請新田に接する区画に「札木前」という地名が記されている。ただこの地名は土地改良後に無くなっている。

坪井村の三枚の高札



五倫の道の札



キリシタン禁制の札

江戸時代から明治の初めに実際に掲示された高札は、篠原小学校にある「郷土資料室」で見ることが出来る。坪井村の庄屋江間家で明治以降も保存されてきたもので、三枚展示されている。写真の上二枚は、明治新政府が発した「五榜(ごぼう)の掲示」と言われていて、五

つの高札の内の二枚で、外国人への加害の禁止の札と五倫(ごりん)の道の札である。下段は正徳元年(一七一七)のキリシタン札と言われている。三枚の内二枚は文字が見えるので次に示します。  
**五倫の道の札**  
五倫の道(儒教で人として守るべき五つの道・広辞苑による)や、身寄りのないものや病弱な人を憐れむことと殺人・放火・盗みなどの禁止を定めている。

**定**

- 一人たるもの五倫の道を正しく守る事
- 一 鯨(かん)が孤獨(こどく)を疾(は)いしもの
- ものを憫(あわれ)む事
- 一人を殺し家を焼き財を盗む等の悪業あるまじく事

康応四年三月 太政官  
右被仰出趣堅く可相守者也  
浜松県

**キリシタン禁制の札**  
ばてれんとは宣教師、いるまんとは修道士、立ちかえり者とは再び信者となった者のこと。訴えた者には褒美を与えるが、隠し立てして他から分かれれば、名主をはじめ五人組まで罰することが記されている。この褒美の銀百枚をお米に換算すると、およそ大人が一年に消費する量だといので、驚くほどの巨額であった。

**定**

きりしたん宗門は累年御禁制たり自然不審成ものこれあら申出へし御ほうびとして

はてれんの訴人 銀五百枚  
いるまんの訴人 銀三百枚  
立かへり者の訴人 同断  
同宿并宗門の訴人 銀百枚

右の通下さるへし たとひ同宿宗門の内たりといふとも申出る品により銀五百枚下さるへし 随し置他所よりあらるへにおゐて公其所の名主并五人組迄一類とも可被行罪科者也

正徳元年五月日  
奉行

**高札場の風景**

江戸時代の村の様子を現在に置き換えてみれば、高札場は町内の掲示板となるが、お上のお達しを伝え、徹底させる権威を持った場所である。文字の読めない多くの村人に読み聞かせるのは、名主などの村役人の仕事であった。村人が神妙に聞いている風景を想像する。

(鈴木忠)

# 郷土の歴史の掘り起しと伝承

「浜風会」はこの表題を活動方針として、その賛同者が活動する集まりです。私はそんなことも考えず、協働センターまつりで、浜風会の展示物を見て興味がわき、軽い気持ちで平成二十五年に入会しました。

終戦の年に小学校に入学した私が、子供心に今でも脳裏に浮かぶのは、遠州灘の「浜の風」と「砂浜」で遊んだ記憶です。この篠原で育った自分が、ふと郷土のことを詳しく系統立てて知りたいと思ったきっかけでもありません。

一歩篠原から世間に出て、出身地を問われれば、県内であれば「玉ねぎの産地の篠原です」と答えるだけですぐに分かります。都会へ出た時には、お茶とミカンの特産地と言えば誰でも「静岡県」だと理解できます。このように自

分の出身地をアピールできる材料や知識があることにより、人生にとってプラスになることが多々あったと感じます。

私たちの年代は、明治・大正・昭和・平成と四世代に関わりをもって生きてまいりました。祖父母・父母・子そして孫と時代は移り行きます。それぞれの世代の伝統や文化遺産の保存継承、愛郷心の向上を育み、更に広く地域の人々との触れ合いを密にしていくなことが大切ではないかと感じます。

あらゆるものがデジタル化され、自動で何でもできてしまう時代だからこそ、今一度原点に戻って自分の生れ育った環境や、その恩恵を知り、正しく伝える義務があるように思えてなりません。

「篠原」と言えば「前浜・玉ねぎ・落花生・

そして東海道」これが原点、そしてそれらによってこの地域独特の生活・由来・伝説が生まれました。先人達が残したものを次の世代を担う子ども達のために受け継いで行くには過去を尋ね、現在を見つめ、未来を考えることが大事だと思います。

♪「東海道の松並木、桜もおう木の問より」篠原小学校の校歌を自分が歌い、我が子も歌い、そして孫も同じ校歌を歌う、何か目に見えない繋がりの感じております。

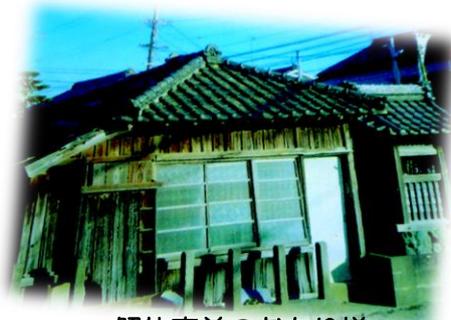
この篠原で、子供たちの健全な成長が育成され、ここに住みたいという人が一人でも増えれば幸せなことだと思います。

今の活動を楽しむ傍ら、何か少しでも地域に貢献できることがあれば素晴らしいと思いたいが、参加させていただいております。

(江間俊充)

## 「おもり(守)様」のこと

馬郡村高札場跡にあった、おもり(守)様は、平成25年、老朽化により解体し、現在は東本徳寺に祀られている。



解体直前のおもり様

おもり様の由来は、豊臣氏家臣の後藤又兵衛の弟、平右衛門がこの地に果て、亡骸が放置されていたことから、周辺で災いが多数生じたので、近隣の人達が理解し、祈念することで平穏になったと言われている。(東本徳寺にある石碑)

**由縁**  
観音堂 豊臣氏家臣  
後藤又兵衛弟平右衛門氏  
(年不詳)七軀葬近隣  
有祀観世音菩薩鎮守  
来  
信仰聚不耐堂宇其用畢  
当山祀像與氏  
平成二十五年癸巳年極月

20数年前まで毎月13日に太鼓をたたき、南無妙法蓮華経を唱え祈念していた。祈念終了後は近隣の人達の憩いの場ともなっていた。

(藤田博辞)

浜風会会報第31号  
篠原協働センター同好会「浜風会」  
(篠原地区郷土の歴史を学ぶ会)  
編集委員 委員長 山下勝彦  
鈴木幹久 鈴木忠 藤田博辞  
発行責任者 山下勝彦  
発行平成29年7月1日  
連絡先：浜松市篠原協働センター 気付